





# ハイブリッド 皮膚科

開業5年で急成長を遂げた  
次世代クリニックの軌跡



医療法人祐諒会グループ理事長  
千里中央花ふさ皮膚科院長

**花房 崇明**  
Takaaki Hanafusa

はじめに

## 保険診療×美容医療で理想の医療を追求する

私は大阪府豊中市において皮膚科クリニックを経営する皮膚科専門医です。当院が開業したのは2017年11月で、「患者さんに信頼され、スタッフがワクワク働き、クリニック自体が成長し、日本社会に貢献する、4方よしのクリニック」を診療理念としています。

皮膚科を標榜するクリニックには、アトピーやニキビ治療などの保険診療をメインにしているクリニックと、シミ取りなどの美容レーザー施術や脱毛などの美容医療（自由診療）を得意とするクリニックがあります。

私が経営するクリニックの一番の特長は、保険診療と美容医療の両方を提供する「ハイブリッド皮膚科」であることです。2019年5月にはクリニックを2フロア体制に拡張し、老若男女を問わず、年間延べ5万人以上の患者さんが来院するまでに成長しました。

2021年12月には隣接する吹田市に分院（江坂駅前花ふさ皮膚科）を開業しています。

医師の中には「美容は医療ではない」「美容分野はよくわからない」と思われる方もいるかもしれませんが。私のように皮膚科専門医でありながら、保険診療だけでなく美容医療も行っている医師に対して、「お金儲けに走った」とあまりよくないイメージを持たれる方もいるかもしれません。

実は私自身も以前はそうでした。もともと大学病院で皮膚に関する研究論文を発表しながらアトピーなどの保険診療の経験を重ねてきたこともあり、開業当初は美容医療を行うつもりはまったくありませんでした。

そんな私が美容医療を始めるようになった経緯はこの本で詳しく話しますが、美容といっても多汗症や赤ら顔など、保険診療の延長のような治療もあります。アトピーやニキビなど皮膚トラブルを抱える方は医療脱毛をすることで症状が改善することがあり、治療の一環として医療脱毛をおすすめすることもあります。

つまり、保険診療では改善できない施術ができるという点で、皮膚科クリニックが美容医療を取り入れるメリットは大きいと考えています。

また、どのような美容医療においても皮膚に関する専門知識があるからこそ、自信を持って治療ができますし、万が一、レーザー脱毛のあとに火傷などのトラブルがあったときも最後まで責任を持って患者さんの治療にあたる事が可能です。

経営的に考えても、ハイブリッド皮膚科なら、美容医療の収益を設備投資やスタッフの昇給・育成、職場環境の改善などに回し、保険診療の患者サービスに還元することもできます。患者さんにとってもクリニックにとってもいいこと尽くしの経営スタイルなのです。

この本を手にとってくださいました皮膚科専門医の勤務医の先生の中には、今後のキャリアに悩んでいる方もいるかもしれません。「開業したらスキルアップができない」「すぐに仕事に飽きてしまうのではないか」と思っている方にこそ、美容医療の分野に挑戦することをおすすめします。

なぜなら、美容医療は保険診療と同様に日進月歩で、国内外で研究が進んでいる分野だ

からです。いくら勉強しても飽きることはありません。

最近では、専門医資格を取得せずに、医師免許取得後数年で美容医療の分野へ進む医師も多くいますが、だからこそ保険診療の研鑽を積んだ皮膚科専門医が美容医療に踏み出す価値は大きく、患者さんにとっても大きなメリットになります。

本書では、私がハイブリッド皮膚科をおすすめする理由を明らかにしながら、皮膚科専門医として無限に広がるキャリアの可能性について考えてみたいと思います。ハイブリッド皮膚科に少しでも興味を持っていただき、皮膚科専門医としてのキャリアを広げてもらえたら、とてもうれしく思います。

医療法人佑諒会グループ理事長

千里中央花ふさ皮ふ科院長

花房崇明

※当院は、同一疾患に対して保険診療と自由診療を組み合わせ提供する混合診療は行っておりません。

はじめに

保険診療×美容医療で理想の医療を追求する

002

第 1 章

# 私がハイブリッド皮膚科を すすめる理由

皮膚科クリニック経営を成功させる第三の選択肢

016

皮膚科の保険診療のビジネスモデルはファストフード店と同じ

017

保険診療は丁寧に診ても単価が変わらない

019

第2章

# ハイブリッド皮膚科の 経営と組織体制

保険診療だけでは医師も患者も満足度が上がらない

値決めができない医療経営の難しさ

誰にでも開かれた素晴らしい保険診療

医師が抱く美容医療に対するイメージ

美容皮膚科が急増している背景

皮膚科専門医がいる美容クリニックは多くない

皮膚科専門医が美容医療を提供する意義は大きい

ハイブリッド皮膚科の4つの魅力

医師・看護師が押さえておきたい経営のキホン

開業は最小限の設備で3000万円から

第3章

医師として技術を磨き、  
経営者として人材を育てる

毎月かかる固定費と変動費 . . . . . 054

意外と知らない治療費の裏側 . . . . . 056

価格設定の差はどうして生まれるのか . . . . . 060

価格設定に見合った技術とサービス内容 . . . . . 062

保険診療のクリニックをラグジュアリーにできない理由 . . . . . 064

経営は値決め、付加価値が重要 . . . . . 066

ハイブリッド皮膚科を始めるために必要な準備 . . . . . 068

ハイブリッド皮膚科の経営収支 . . . . . 072

患者さんは皮膚科クリニックに何を期待しているのか . . . . . 076  
保険診療の知識があるからこそ、質の高い美容医療を提供できる . . . . . 079



第4章

# 医師キャリアの可能性は無限に広がっている

腕がいいだけでは開業医として成功しない . . . . . 082

皮膚科は海外では人気の高い診療科 . . . . . 084

優れた指導者との出会いが成長の近道 . . . . . 085

スタッフが成長できる仕組みづくり . . . . . 089

女性が働きやすい環境の整備 . . . . . 095

スタッフがそれぞれの成長、それぞれの思い . . . . . 099

スパルタな両親のおかげで中高の成績は常にトップ . . . . . 114

受験番号書き忘れのミス、それでもなんとか大阪大学に . . . . . 118

高校までとは一変、ハジけた大学時代 . . . . . 120

思い出深い大学の授業、恩師との出会い . . . . . 122

第5章

# ハイブリッド皮膚科は 1日にして成らず

医局に疲弊するも、論文執筆が転機に	124
教授を目指して大学院、さらに留学へ	128
研究は肩書を得るため？ ストレスから体調悪化	131
耳鼻科の先生との出会いで開業を決意	135
悔いのないキャリアを選択するために	136
開業医は想像以上にハードワーク	142
勤務医が知らない保険診療の裏側	144
安心・安全な美容医療で患者さんを救いたい	146
医者は社会の常識を知らない	147
自然とスタッフがついてくるわけではない	151

次々に辞めていくスタッフ	153
新型コロナで状況がさらに悪化	155
大量離職の裏にあった引き抜き事件	158
リーダーに重要なのは心の「あり方」	161
一本の電話から分院がスタート	163
自分の夢を叶えられているのはスタッフのおかげ	164
スタッフに感動体験を	166
関係性がよくなるとアイデアはカタチになりやすい	169
熱い思いを伝え、経営者としてのビジョンを見せる	172
大学の非常勤講師として教鞭をとる	174
スタッフに惚れられる経営者に	175

# 見た目は人生の一部、 だからこそベストな治療で 期待に応える

- 感謝の言葉が仕事のモチベーションに . . . . . 180
- 「学校へ行くのが楽しくなった」と笑顔が増えた女子学生 . . . . . 181
- 何年間も悩まされていたアトピー性皮膚炎が改善 . . . . . 182
- 見た目が美しくなることに年齢は関係ない . . . . . 184
- アトピー性皮膚炎だと医療脱毛ができない? . . . . . 187
- アトピーや毛深さに悩んだ自分の経験を治療に活かしたい . . . . . 190

# 【特別対談】医師から見た ハイブリッド皮膚科の魅力

千里中央花ふさ皮ふ科院長 花房崇明 × 江坂駅前花ふさ皮ふ科院長 大村玲奈

保険と美容の両方を提供できるクリニックを探していた	195
丁寧な診療スタイルに信頼感が持てた	199
ハイブリッドなら患者さんのどんな悩みにも対応できる	201
いつも新たなチャレンジを続けていたい	204
専門医がハイブリッド皮膚科を経営する意義は大きい	206
皮膚科医は最高に楽しい！	209
おわりに	213

カバーデザイン 齋藤 稔 (GIRAM)

本文デザイン 荒 好見

編集協力 藤森優香 / 森田 剛